

令和4年度教育委員会事務の点検・評価に関する報告書  
(令和3年度対象) について

このことについて、別紙のとおり決定いたしたい。

令和4年11月4日

岡山県教育委員会教育長

鍵 本 芳 明

令和4年度

教育委員会事務の点検・評価に関する報告書

(令和3年度対象)

令和4年 月 日

岡山県教育委員会

## 目次

[はじめに]	1
I 令和3年度岡山県教育委員会の活動状況	2
1 教育委員会会議の開催状況	2
2 総合教育会議	2
3 意見交換・懇談会等	2
4 岡山県教育委員会会議での意見の施策への反映	3
5 総括	4
有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	5
II 令和3年度個別の施策・事業の実施状況	7
1 魅力ある学校づくりの推進	8
有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	13
2 学びのチャレンジ精神の育成	15
有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	19
3 家庭・地域の教育力の向上	20
有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	21
4 規範意識と思いやりの心、健やかな体の育成	22
有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	27
5 生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興	29
有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方	30
意見を頂いた有識者	31
岡山県教育委員会委員	31
(参考資料)	
1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)抜粋	

[はじめに]

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、岡山県教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行った結果を取りまとめ、岡山県議会に提出するとともに、一般に公表するものであります。

本報告書では、令和3年度岡山県教育委員会の活動状況について、教育委員会会議での審議状況等をまとめるとともに、施策毎に取組状況や成果、課題等を整理しております。学力向上については、授業改善や、家庭学習指導・補充学習の充実に取り組むとともに、長期欠席・不登校については、支援員の効果的な配置や学校全体の組織的な対応を推進してきたところであり、今後、学校経営力のさらなる強化に努め、学力向上や長期欠席・不登校をはじめとする学校が抱える課題の解決や特色ある学校づくりにつなげていくことが必要であると考えております。また、あわせて有識者から第3次岡山県教育振興基本計画の大項目ごとに評価・意見等を頂き、取組のさらなる改善を図ることとしております。

今日、グローバル化の進展などにより社会構造が変化するとともに、新学習指導要領の実施により、学校と社会が次代を担う人材を育成していくという目標を共有し、連携・協働しながら子どもたちに必要な資質能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現が求められるなど、教育をめぐる状況が大きく変動しています。また、Society 5.0時代の到来やGIGAスクール構想の推進により、ICTの活用促進の加速化が進んでいます。その中で県教育委員会としては、本県教育の使命を、子どもたち一人ひとりの夢を育み、学ぶ意欲の向上を図る「夢育」の取組などを通じて、子どもたちに自らの進路を切り拓く力を確実に身に付けさせるとともに、郷土岡山を愛し、より良い社会づくりに積極的に貢献する人間を育てることと考えています。

この使命を実現するために、総合教育会議における協議等を通して、知事との連携をこれまで以上に深めながら、重点的に取り組んできた学力向上や長期欠席・不登校への対応とともに、県内外において、さまざまな分野で主体的に活躍する人材の育成に、よりスピード感を持って取り組むことが重要であると考えています。

令和4年度は、「教育県岡山の復活」を重点戦略の第一に掲げた「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」や「第3次岡山県教育振興基本計画」の計画期間の2年目であり、目標の達成に向け、市町村教育委員会や学校、家庭、企業、関係団体等としっかり課題を共有し、協働しながら施策を徹底し、教育行政を進めていくこととしております。引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

岡山県教育委員会

# I 令和3年度岡山県教育委員会の活動状況

## 1 教育委員会会議の開催状況

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	2	2	1	2	2	1	2	2	1	2	2	1	20

審 議 事 項	件数
①人事・給与に関する事（公立学校長選考試験の実施、教職員の人事異動など）	11
②叙勲、表彰に関する事（岡山県教育関係功労者表彰）	3
③教育計画等に関する事（教育施策の概要、特別支援教育推進プランの策定など）	10
④審議会等委員の任免に関する事（教科用図書選定審議会委員の任命）	2
⑤予算及び議会議案に関する事（補正予算、当初予算要求など）	7
⑥公立学校教員採用試験に関する事	1
⑦高等学校入学者選抜に関する事（入学者選抜実施大要、募集定員の策定方針など）	8
⑧学力、学習環境、学校生活に関する事（全国学力・学習状況調査など）	7
⑨体育、スポーツに関する事（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）	1
⑩文化、文化財に関する事（県指定重要文化財等の指定）	2
⑪生涯学習に関する事（学びのコンテンツサイト「まなびとサーチ」など）	2
⑫教科書採択に関する事（使用教科用図書の採択など）	4
⑬その他（教育委員会事務の点検評価、行政評価、教育委員会規則の改正など）	9
※議案25件、協議事項20件、報告事項22件	計 67

そのほかに、資料提供（各種文部科学大臣表彰候補者、全国大会の成績など66件）を行うとともに、委員協議会（教育県岡山について、社会教育団体の在り方など34件）を12回開催した。

## 2 総合教育会議

議 題
第1回 学校におけるPBL（課題解決型学習）の取組、今後の新たな施策検討の方向性

## 3 意見交換・懇談会等

相手方	議 題
小・中学校長	教育の質の向上に向けた働き方改革のさらなる推進と諸条件の整備について
教育事務所職員	教育事務所の取組について
県立高等学校長	GIGAスクール構想一人一台端末の活用について
県立特別支援学校長	特別支援学校のセンター的機能の充実について
県立博物館、古代吉備文化財センター職員	博物館の取組について 古代吉備文化財センターの取組について
県立図書館、生涯学習センター職員	図書館の取組について 生涯学習センターの取組について
倉敷まきび支援学校教員	H30西日本豪雨からの復興状況について 学校の取組について
岡山工業高等学校教員	STEAM教育による、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成について

#### 4 岡山県教育委員会会議での意見の施策等への反映

[R3.4.16 「教育県岡山」の成り立ちとこれから～新しい教育を岡山から～について]

- ・岡山県の教育県としての成り立ちやその経過、これからの方向性を整理するにあたり、これからの岡山県の教育において、不易の部分はどこで、流行の部分はどこかということを確認にする必要がある。

⇒「時代を超えて変わらない価値あるもの」（不易）として、豊かな人間性、自らを律しつつ他人と協調し、他人を思いやる心や、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度などとした上で、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」（流行）として、グローバル化の進展やSociety5.0の到来など急激な社会の変化に教育が的確かつ迅速に対応していく必要があることを示すこととした。

[R4.2.4 令和4年度当初予算額について]

- ・部活動を地域移行でアウトソーシング化していく取組を加速化させることを考えると予算を増額すべきだ。

⇒部活動の段階的な地域移行に向けて、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組むための、地域部活動推進事業について、市町村に向けた地域移行説明会の開催や、地域移行支援コーディネーターの活用などにより、拡充することとした。

[R3.9.3 全国及び岡山県学力・学習状況調査結果の概要について]

- ・授業改革推進リーダーの効果を感じる。また、授業でも学力調査の問題のように、非認知能力を養う問題や生活に根ざした問題が増えるとよいと考える。

⇒授業改革推進リーダー、授業改革推進員の配置について、チーム数を10チームから11チームに拡充し、新たに玉野・赤磐・備前地区の小学校にも配置することとした。

⇒身近な地域を学びの場として、児童生徒の主体性を生かしながら、自ら課題設定や解決に向けての道筋を考えさせる課題解決型学習を通じて非認知能力の向上に繋がる授業改善を推進するため、岡山型課題解決学習の考え方や学習過程をまとめたガイドブックを作成することとした。

[R3.12.17 第26期岡山県産業教育審議会建議について]

- ・スマート農業やスマート工業の分野において、産業界と連携していくために学校現場はどう変化しなければならないのか検討する必要がある。特に専門家から意見を聞く場を作ってほしい。

⇒産業界と連携した専門的かつ協働的な学びの充実を図るとともに、生徒が企業をよりよく知る機会を充実させるために、岡山県教育委員会と経済6団体との包括連携協定の締結に向けた検討をすることとした。

## 5 総括

令和3年度は、第3次岡山県教育振興基本計画がスタートした年でした。教育の現状や2次計画の取組の成果と課題を踏まえ、子どもたちの学びの原動力である夢を育む「夢育」の取組に本格的に着手するとともに、依然として大きな教育課題である学力向上や問題行動等の改善に向けた取組の徹底に加え、コロナ禍においてもグローバル人材の育成に向けたオンライン交流の推進などの取組を進めてきました。

教育委員会会議は、令和3年度は、毎月第1、3金曜日を中心に全20回開催し、限られた時間ではあるものの、議題を精選した上で、議論する時間を積極的に設けるなど、熱心に審議を行い、県教育行政の重要施策を審議決定するとともに、学力向上や産業教育をはじめとする各種施策や事業等へ意見を反映させました。

岡山県総合教育会議では、学校におけるPBL（課題解決型学習）の取組を踏まえ、今後の取組の方向性について、知事と協議を行いました。

また、本県の教育課題の改善に向けて、市町村教育委員会や各種団体等との連携が重要であるとの認識から、学校現場などの視察を行うとともに、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、オンラインも活用しながら、懇談会や意見交換の場を積極的に持ち、現状を把握した上で、本県の施策に活かせるよう努めました。

県教育委員会では、本県教育行政を担う者としての責任感を一層強く持ち、これまで以上に会議の活性化や効果的な運用を図るとともに、市町村教育委員会、学校との協働を一層進め、保護者や地域の方々、企業、NPO等様々な主体から幅広く意見・要望等を伺い、児童生徒や地域の状況に応じた教育を実現し、教育県岡山の復活に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方  
 (I 教育委員会の活動状況)

評価者名	卯月 由佳 (国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官)
評 価 意 見	<p>・『「教育県岡山」の成り立ちとこれから』で教育の「不易」として挙げられている「公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度」の、時代を超えた重要性は理解できます。一方で、<u>これが過去の教育でも明確に目指されてきたか、十分な成果を上げてきたかについては丁寧に振り返り、今後の重点課題と捉える必要もある</u>と思います。</p>
県教委の考え方	<p>・本県においては、江戸時代に岡山藩主池田光政が、領民の生活が成り立つためには、武士だけでなく、地域のリーダー達にも教育が必要と考え、閑谷学校を設立したり、山田方谷が、藩校や私塾において、人づくりに心血を注ぎ、多くの優れた人材を世に送り出すなど、古くから社会の発展に寄与する教育を行ってきておりました。しかしながら、時代の変化とともに、個人の尊厳を重んじる一方で、「官」が公共を形成するかのような意識が広がっていく中、平成18年に改正された教育基本法において、新たに「公共の精神」の育成が掲げられたことも踏まえ、平成22年に初めて策定した岡山県教育振興基本計画においても、より良い社会づくりに参画していこうとする意欲や、課題解決に向け積極的に社会に貢献する態度を育むことを掲げております。こうした視点は引き続き重要であり、今後も、社会の一員としてより良い社会づくりに積極的に参画していこうとする人材の育成のため、子どもたちの社会貢献活動への一層の理解と参加を促すとともに、地域で活躍できる場を創出するなどの施策を推進してまいります。</p>
評価者名	岡本 典久 (ライト電業株式会社代表取締役社長)
評 価 意 見	<p>・大きな課題と認識されている「学力向上」や「問題行動等の改善」「グローバル人材の育成」に関しては具体的な取組が実施されていて評価しますが、将来のための子どもたちの学びの原動力である夢を育む「<u>夢育</u>」の取組を「<u>2 学びのチャレンジ精神の育成</u>」だけでは不十分と考えます。<u>非常に難しい課題ですが、もっと具体的に取り組むべき</u>と考えます。</p>
県教委の考え方	<p>・子どもたちの学ぶ力を育むことによる学力の確実な定着、問題行動を生まない学校づくり、国際的に活躍できる人材の育成などについては、様々な施策を通じて、重点的に取り組みを進めているところです。「夢育」の取組については、主に「<u>2 学びのチャレンジ精神の育成</u>」において記載しておりますが、他の項目における既存の取組の中でも、「夢育」の視点から事業を見直し、体験活動、職場体験、様々なコンテストへの参加など、子どもたちが夢に出会う機会や、夢への道筋を考える機会の提供などを通して、引き続き学校・家庭・地域の連携の下、教育活動のさまざまな場面で「夢育」の取組を進めてまいります。</p>

評価者名	進藤 貴子（川崎医療福祉大学医療福祉学部教授）
評 価 意 見	<p>・コロナ禍にありながら県教委の機能を維持充実させる取り組みをありがとうございました。<u>施策への意見具申による教育施策の推進への貢献は大であると感じます。</u>効率と集中が重要である一方、<u>必要なコストの確保が持続可能性につながると</u>思います。そういう意味では<u>アウトソーシングの必要な予算化のご提言は特に重要であると感じました。</u>また学校教育だけでなく、家庭教育、社会教育にも目を配られていることが素晴らしいと思います。</p> <p>・県教委と市町村教委とは役割分担をなされていると思います。その中で、<u>各市町村の特色ある取り組みの共有や、市町村同士の横の連携がどのように行われているか、知りたい</u>と思いました。</p>
県教委の考え方	<p>・学校現場の視察を行うとともに、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、オンラインも活用しながら、懇談会や意見交換の場を積極的に設けるなど、活動の充実を図っているところです。こうした中で、教育委員会会議では予算に関することも積極的に議論しており、学力向上、不登校対策などの重点的な取組について、引き続き必要な予算確保に努めてまいります。</p> <p>・小中学生が住んでいる地域の活性化の提案など、自ら課題を発見し、課題解決に取り組んだ学習成果を発表する「おかやま学びたい賞フォーラム」を開催したり、別室指導の実践研究事例をまとめた「岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード増補版」を配付するなど、市町村の優良事例の共有を進めております。また、地域単位で授業改革推進チームを設置し、市町村を越えて、優れた教育実践を普及するなど、市町村の連携も円滑になされるよう引き続き取り組んでまいります。</p>

## II 令和3年度個別の施策・事業の実施状況

個別の施策・事業の評価に当たっては、第3次岡山県教育振興基本計画の施策体系に基づき、施策（下記表中項目）毎にその取組と成果、課題と対応策についてまとめています。

大項目	中項目	頁
1 魅力ある学校づくりの推進	(1) 子どもたちが落ち着いて学習できる環境の整備	8
	(2) 不登校を生まない学校づくりの推進	8
	(3) 教師の授業力の向上と魅力ある人材の確保	9
	(4) 就学前教育の質の向上	10
	(5) 活力ある小・中学校づくり	10
	(6) 高等学校段階における教育の充実	11
	(7) 特別支援教育の推進	11
	(8) 大学等との連携	12
	(9) 子どもたちの安全の確保	12
2 学びのチャレンジ精神の育成	(1) 夢を育む教育やキャリア教育・職業教育の推進	15
	(2) 子どもたちの学力が伸びる仕組みづくり	16
	(3) 国際的に活躍できる人材の育成	17
	(4) Society5.0に向けた人材の育成	18
3 家庭・地域の教育力の向上	(1) 家庭・地域の教育力の向上による、子どもたちの生活習慣・学習習慣の定着	20
	(2) 地域住民の参画による学校運営協議会・地域学校協働活動の取組の推進	20
4 規範意識と思いやりの心、健やかな体の育成	(1) 道徳教育を中心とした規範意識の確立	22
	(2) いじめや暴力行為等への対策の推進	22
	(3) スマホ・ネット等青少年を取り巻く問題への対応	23
	(4) 郷土愛の醸成	23
	(5) より良い社会づくりに参画する人材の育成	24
	(6) 子どもたちの体力の向上	25
	(7) 子どもたちの健康の保持増進	26
	(8) 人権教育の推進	26
5 生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興	(1) 生涯学習活動の推進	29
	(2) 文化創造活動の振興と文化財の保存・活用	29

# 1 魅力ある学校づくりの推進

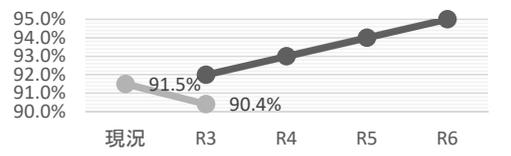
1- (1) 子どもたちが落ち着いて学習できる環境の整備																		
<主な取組> ●授業規律の確立 ●落ち着いた学習環境づくりへの支援																		
(目標指標) 公立小・中学校における学級がうまく機能しない状況が発生している学級数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">9学級</td> <td>目標値</td> <td>8学級</td> <td>6学級</td> <td>6学級</td> <td>6学級</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>7学級</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値		R3	R4	R5	R6	9学級	目標値	8学級	6学級	6学級	6学級	実績値	7学級	-	-	-
現況値		R3	R4	R5	R6													
9学級	目標値	8学級	6学級	6学級	6学級													
	実績値	7学級	-	-	-													
令和3年度中における取組・成果 ・課題	●落ち着いた学習環境づくりへの支援 ・学級がうまく機能しない状況等にある小・中学校に、コロナ禍においても可能な限り、保健福祉や特別支援の専門指導員を積極的に派遣し、現場支援を行うとともに、必要に応じて、教育支援員もしくは別室指導支援員を配置し、学級担任等の補助を行うことで状況を改善（専門指導員派遣校数：②（令和2年度）延べ160校⇒③（令和3年度）延べ144校） ・問題行動が見え始めた学校に集中指導員を早期から派遣し、継続的に助言・支援を行い、学校の指導体制を強化（集中指導員派遣校数：②延べ536校⇒③延べ441校） ・荒れの状況や背景にある課題に対して、早期の段階から組織的な指導・支援が行われるよう、引き続き体制づくりへの支援が必要																	
本報告書作成時点の対応状況	●落ち着いた学習環境づくりへの支援 ・学級がうまく機能しない状況等にある小・中学校に専門指導員や集中指導員を早期の段階から派遣し、指導助言を行うとともに、必要に応じて教育支援員等を配置 ・前年度に課題が見られた学校に対しては、フォローアップの訪問を確実にし、その後の状況を把握するとともに、指導・支援体制についても継続的な助言を実施																	

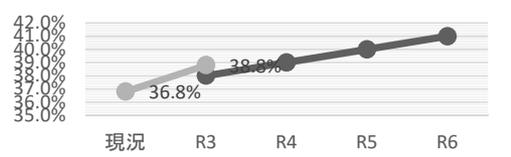
1- (2) 不登校を生まない学校づくりの推進																		
<主な取組> ●学校の組織的対応力の向上 ●専門家の活用や関係機関等との連携の促進																		
(目標指標) 小・中・高等学校における不登校の出現割合の全国平均との差	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">+0.6人</td> <td>目標値</td> <td>+0.3人</td> <td>-1.6人</td> <td>-1.6人</td> <td>-1.6人</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>-2.9人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値		R3	R4	R5	R6	+0.6人	目標値	+0.3人	-1.6人	-1.6人	-1.6人	実績値	-2.9人	-	-	-
現況値		R3	R4	R5	R6													
+0.6人	目標値	+0.3人	-1.6人	-1.6人	-1.6人													
	実績値	-2.9人	-	-	-													
令和3年度中における取組・成果 ・課題	●学校の組織的対応力の向上 ・学校訪問や研修等において、「岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード」に基づく組織的な対応力を向上 ・登校支援員等を配置（20市町、小学校103校） ・専属教員と支援員を配置した別室指導の実践研究を実施（小学校6校、中学校11校） ・別室指導の取組の成果とICTを活用した不登校対策の実践事例を取りまとめた指導資料を作成・配付 ・不登校の出現割合は依然として高いことが課題 ●専門家の活用や関係機関等との連携の促進 ・スーパーバイザーによる指導助言や研修会の実施により、スクールカウンセラー（SC）スクールソーシャルワーカー（SSW）の対応力強化とともに学校における教育相談体制を充実 ・早期対応につなげるために、SSWによる定期的な巡回訪問を実施 ・SC、SSWの優秀な人材の確保が課題																	
本報告書作成時点の対応状況	●学校の組織的対応力の向上 ・登校支援員・別室支援員を配置（③20市町103校⇒④20市町102校） ・別室指導の専属教員と支援員を拡充して配置（小学校③6校⇒④9校、中学校③11校⇒④19校） ・別室指導の成果普及のため、新たに別室指導推進員（1名）による支援を実施 ・学校訪問や各種研修、連絡協議会等で「岡山県長期欠席・不登校対策スタンダード増補版」を活用し、別室指導、ICTを活用した不登校対策を県下へ普及 ●専門家の活用や関係機関等との連携の促進 ・SCの年間派遣回数が増加した学校を解消するため、派遣回数を増加 ・SSWについて、全員有資格者を任用 ・スーパーバイザーによる指導助言や研修会の実施により、SC、SSWの対応力を強化																	

I - (3) 教師の授業力の向上と魅力ある人材の確保																														
<p>〈主な取組〉</p> <p>●学力状況の把握 ●学校経営の支援 ●教師の授業力の向上 ●働き方改革の推進</p> <p>●教職員の健康管理 ●魅力ある人材の確保等</p>																														
<p>(目標指標)</p> <p>全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差 (小6)</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>現況</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr><td>差</td><td>-1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	項目	現況	R3	R4	R5	R6	差	-1	0	0	0	0	<table border="1"> <tr><th>現況値</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr><td>目標値</td><td>+1ポイント</td><td>+1ポイント</td><td>+1ポイント</td><td>+1ポイント</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>±0ポイント</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	目標値	+1ポイント	+1ポイント	+1ポイント	+1ポイント	実績値	±0ポイント	-	-	-		
項目	現況	R3	R4	R5	R6																									
差	-1	0	0	0	0																									
現況値	R3	R4	R5	R6																										
目標値	+1ポイント	+1ポイント	+1ポイント	+1ポイント																										
実績値	±0ポイント	-	-	-																										
<p>(目標指標)</p> <p>全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差 (中3)</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>現況</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr><td>差</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	項目	現況	R3	R4	R5	R6	差	0	0	0	0	0	<table border="1"> <tr><th>現況値</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr><td>目標値</td><td>+1ポイント</td><td>+1ポイント</td><td>+1ポイント</td><td>+1ポイント</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>±0ポイント</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	目標値	+1ポイント	+1ポイント	+1ポイント	+1ポイント	実績値	±0ポイント	-	-	-		
項目	現況	R3	R4	R5	R6																									
差	0	0	0	0	0																									
現況値	R3	R4	R5	R6																										
目標値	+1ポイント	+1ポイント	+1ポイント	+1ポイント																										
実績値	±0ポイント	-	-	-																										
<p>(目標指標)</p> <p>「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合 (小6)</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>現況</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr><td>割合</td><td>82.9%</td><td>81.7%</td><td>83.7%</td><td>84.2%</td><td>84.6%</td></tr> </table>	項目	現況	R3	R4	R5	R6	割合	82.9%	81.7%	83.7%	84.2%	84.6%	<table border="1"> <tr><th>現況値</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr><td>目標値</td><td>82.9%</td><td>83.7%</td><td>84.2%</td><td>84.6%</td><td>85.0%</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>81.7%</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	目標値	82.9%	83.7%	84.2%	84.6%	85.0%	実績値	81.7%	-	-	-	-
項目	現況	R3	R4	R5	R6																									
割合	82.9%	81.7%	83.7%	84.2%	84.6%																									
現況値	R3	R4	R5	R6																										
目標値	82.9%	83.7%	84.2%	84.6%	85.0%																									
実績値	81.7%	-	-	-	-																									
<p>(目標指標)</p> <p>「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合 (中3)</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>現況</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr><td>割合</td><td>73.9%</td><td>79.7%</td><td>74.7%</td><td>77.0%</td><td>77.5%</td></tr> </table>	項目	現況	R3	R4	R5	R6	割合	73.9%	79.7%	74.7%	77.0%	77.5%	<table border="1"> <tr><th>現況値</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr><td>目標値</td><td>73.9%</td><td>74.7%</td><td>77.0%</td><td>77.5%</td><td>78.0%</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>79.7%</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	目標値	73.9%	74.7%	77.0%	77.5%	78.0%	実績値	79.7%	-	-	-	-
項目	現況	R3	R4	R5	R6																									
割合	73.9%	79.7%	74.7%	77.0%	77.5%																									
現況値	R3	R4	R5	R6																										
目標値	73.9%	74.7%	77.0%	77.5%	78.0%																									
実績値	79.7%	-	-	-	-																									
<p>令和3年度中における取組・成果・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学力状況の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国及び県学力・学習状況調査の結果分析に基づき、学習定着度の確認などを実施</li> </ul> </li> <li>●学校経営の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職のビジョンと戦略を支援するため、学校経営アクションプランを基に、学校経営アドバイザー (②3名⇒③4名) や県幹部等が県内全ての公立小・中学校を訪問</li> <li>・引き続き、学校経営アクションプランに基づいた組織的な取組の推進が必要</li> </ul> </li> <li>●教師の授業力の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改革推進リーダー・授業改革推進員の配置：②10地区(38人)⇒③10地区(38人)</li> <li>・引き続き、授業改革推進リーダー等の配置を通じて校内指導体制確立の推進が必要</li> </ul> </li> <li>●働き方改革の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師業務アシスタント (②164校⇒③167校)、部活動指導員 (②73校122人⇒③95校153人) の活用による教職員の負担軽減</li> <li>・引き続き、外部人材の確保等を通じて、学習指導等に専念する時間確保が必要</li> </ul> </li> </ul>																													
<p>本報告書作成時点の対応状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学力状況の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・短いスパンで取組を点検し、児童生徒に確実に力を付ける指導を徹底</li> <li>・令和4年4月に全国及び県学力・学習状況調査を実施し、結果の分析を踏まえた取組を推進</li> <li>・「授業では課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の肯定的に回答した割合が、小・中学校共に全国平均を下回っており、教師の授業力向上や児童生徒が主体的に学ぶ授業への転換を推進</li> </ul> </li> <li>●学校経営の支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営アドバイザーを増員 (③4名⇒④5名) し、年2回の学校訪問を実施 (第1回 5月～7月、第2回 9月～12月)</li> </ul> </li> <li>●教師の授業力の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改革推進リーダー・授業改革推進員を新たに玉野・備前・赤磐地区の小学校に配置 (③10地区38人⇒④11地区41人)</li> </ul> </li> <li>●働き方改革の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師業務アシスタント (③167校⇒④160校)、部活動指導員 (③95校153人⇒④100校166人に増員) を配置</li> </ul> </li> </ul>																													

I - (4) 就学前教育の質の向上																					
<主な取組> ●教職員等の資質能力の向上 ●小学校教育への円滑な接続																					
(目標指標) 就学前教育に関する研修への延べ参加人数	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,456人</td> <td>2,500人</td> <td>2,500人</td> <td>2,500人</td> <td>2,500人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>1,917人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	2,456人	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人		実績値					1,917人	-	-	-
現況値	R3	R4	R5	R6																	
2,456人	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人																	
	実績値																				
	1,917人	-	-	-																	
令和3年度中における取組・成果 ・課題	●教職員等の資質能力の向上 ・就学前教育の質的向上のための研修の実施にとどまらず、就学前教育スーパーバイザーを2名配置し、市町村の研修会等へ派遣し、指導・助言を通じて、市町村の保幼少接続カリキュラムの改善支援を実施（研修会等への派遣回数：②54回⇒③60回） ・幼稚園教育要領を踏まえた教育実践やそれを支える研修など、更なる質の向上に向けた取組が必要																				
本報告書作成時点の対応状況	●教職員等の資質能力の向上 ・幼稚園教育要領に基づく教育の実践の充実に向け、就学前教育担当者等が参加する会議を開催し、就学前教育の充実に向けて協議するなど、関係者と連携して取組を実施																				

I - (5) 活力ある小・中学校づくり	
<主な取組> ●地域の実情を踏まえた活力ある学校づくり ●小規模小・中学校への支援 ●学校の再編を検討・実施する市町村への支援	
令和3年度中における取組・成果 ・課題	●地域の実情を踏まえた特色ある学校づくり ・小・中学生が居住する地域を題材に学習に取り組んだ成果を募集し、表彰する「おかやま学びたい賞」を実施（応募校数：①小学校32校⇒③23校、②中学校17校⇒③10校） ・引き続き、自ら課題設定や解決に向けての道筋を考えさせる学習の推進が必要
本報告書作成時点の対応状況	●地域の実情を踏まえた特色ある学校づくり ・自ら課題設定や解決に向けての道筋を考えさせる学習を推進するため、岡山型課題解決学習（PBL）の考え方や学習過程をまとめたガイドブックを作成予定 ・小・中学生に向けた夢への実現に向けたメッセージ動画を作成予定 ・「おかやま学びたい賞」の作品を募集し、令和5年2月に「おかやま学びたい賞フォーラム」を開催予定

I - (6) 高等学校段階における教育の充実																		
<主な取組> <b>●魅力ある高等学校づくりの推進 ●県立高等学校の教育体制整備</b>																		
(目標指標) 高校生活に満足している生徒の割合 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">91.5%</td> <td>目標値</td> <td>92.0%</td> <td>93.0%</td> <td>94.0%</td> <td>95.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>90.4%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値		R3	R4	R5	R6	91.5%	目標値	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%	実績値	90.4%	-	-	-
現況値		R3	R4	R5	R6													
91.5%	目標値	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%													
	実績値	90.4%	-	-	-													
令和3年度中における取組・成果・課題	<b>●魅力ある高等学校づくりの推進</b> ・時代をリードする教育を目指すリーディングモデル等6校において、STEAM教育やスマート農業などの取組を促進するとともに、地域連携を促進するリージョナルモデル10校において、地域資源を活用したカリキュラムの開発、地域学の充実などを図ることを通じて、県立高校の魅力化を促進 ・「高校生探究フォーラム」の実施により、高校生の探究活動の成果発表の場を設けるとともに、意見交換による学びの深化を促進 ・県立高校への志望倍率の低下を踏まえ、更なる魅力化・活性化が必要 <b>●県立高等学校の教育体制整備</b> ・コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)については、新たに3校(津山商業高校、井原高校、備前緑陽高校)において導入し(計9校)、地域の小学生への学習指導やドローンを活用したプログラミングの指導を行うなど、地域や学校の特色に応じた教育内容の充実、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組を促進																	
本報告書作成時点の対応状況	<b>●魅力ある高等学校づくりの推進</b> ・地元中学生の都市部への流出抑制と県内外からの志願者増を図ることを目的とした「高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業」を実施し、指定校3校(勝山高校蒜山校地、和気閑谷高校、矢掛高校)と準指定校5校(岡山御津高校、邑久高校、真庭高校、林野高校、勝間田高校)を指定し、多くの高校で魅力づくりに実績のある外部団体の支援を受けながら、県立高校の魅力化・活性化を促進 ・「高校生探究フォーラム」の実施により、引き続き、高校生の探究活動の成果発表の場を設けるとともに、意見交換による学びの深化を促進 <b>●県立高等学校の教育体制整備</b> ・コミュニティ・スクールについては、学校や地域の状況を踏まえ、学校や地域の関係者を訪問し、協議を重ねるなど、引き続き積極的に導入を検討																	

I - (7) 特別支援教育の推進																		
<主な取組> <b>●特別支援学校の教育の充実 ●小・中・高等学校等における特別支援教育の充実</b> <b>●インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の充実</b>																		
(目標指標) 居住地校交流を実施した児童の割合(小学部) 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">36.8%</td> <td>目標値</td> <td>38.0%</td> <td>39.0%</td> <td>40.0%</td> <td>41.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>38.8%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値		R3	R4	R5	R6	36.8%	目標値	38.0%	39.0%	40.0%	41.0%	実績値	38.8%	-	-	-
現況値		R3	R4	R5	R6													
36.8%	目標値	38.0%	39.0%	40.0%	41.0%													
	実績値	38.8%	-	-	-													
令和3年度中における取組・成果・課題	<b>●インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の充実</b> ・交流籍を導入し、特別支援学校1校を指定し研究を行い、オンラインも活用しながら居住地校交流を実施 ・居住地校交流に理解が得られていない保護者や小学校に対して、リーフレットやガイドを利用し、理解の促進が必要																	
本報告書作成時点の対応状況	<b>●インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の充実</b> ・全県立特別支援学校(小学部)において、交流籍を活用した居住地校交流を実施 ・県立特別支援学校及び市町村(組合)教育委員会に対して居住地校交流の実施ガイドやリーフレットの活用について周知し、理解を促進。																	

I - (8) 大学等との連携							
〈主な取組〉 ●大学等との連携 ●企業等との連携							
(目標指標) おかやま子ども応援人材バンクの活用数		現況値		R3	R4	R5	R6
		130件	目標値	175件	200件	225件	250件
			実績値	198件	-	-	-
令和3年度中における取組・成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学等との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>岡山大学教育学部との連携により、県総合教育センターにおける研修講座を学生・教員に公開</li> </ul> </li> <li>●企業等との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ等による「おかやま子ども応援人材バンク」の活用促進</li> <li>活用数増加に向け、企業が学校で実施しやすいプログラムの開発が必要</li> </ul> </li> </ul>						
本報告書作成時点の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学等との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>岡山大学と協働で、正課外活動を通じて、高校生や大学生といった次世代が、ともに夢を育み、主体的に学ぶ場を提供する「おかやま夢育イニシアチブ」事業を新たに開始</li> </ul> </li> <li>●企業等との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>企業と連携し、企業が学校で実施しやすいプログラムを開発する「みらプロ」を実施</li> <li>市町村教育委員会や県生涯学習センターと連携し、開発したプログラムの活用の促進</li> </ul> </li> </ul>						

I - (9) 子どもたちの安全の確保							
〈主な取組〉 ●生活安全の推進 ●交通安全の推進 ●災害安全の推進 ●非常時に備えた危機管理体制の充実							
(目標指標) 防災の基礎学習を実施している学校の割合(小学校)		現況値		R3	R4	R5	R6
		89.5%	目標値	93.7%	95.8%	97.9%	100.0%
			実績値	95.0%	-	-	-
(目標指標) 防災の基礎学習を実施している学校の割合(中学校)		現況値		R3	R4	R5	R6
		89.0%	目標値	93.4%	95.6%	97.8%	100.0%
			実績値	92.2%	-	-	-
(目標指標) 防災の基礎学習を実施している学校の割合(高等学校)		現況値		R3	R4	R5	R6
		79.1%	目標値	87.5%	91.7%	95.9%	100.0%
			実績値	83.8%	-	-	-
令和3年度中における取組・成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害安全の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>近年の自然災害の激甚化、頻発化を受け、防災マニュアル等の見直しや防災の基礎学習の実施を促進</li> <li>県立笠岡高等学校をモデルに、生徒の主体的に行動する態度を育成するとともに、地域・関係機関等と連携した学校安全体制を構築</li> </ul> </li> </ul>						
本報告書作成時点の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害安全の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>新見地域をモデル地域に指定し、学校安全アドバイザーを活用しながら拠点校の防災教育を充実</li> <li>災害リスク現地調査により学校防災マニュアルを改善</li> </ul> </li> </ul>						

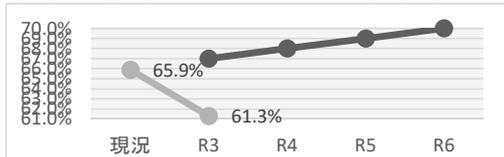
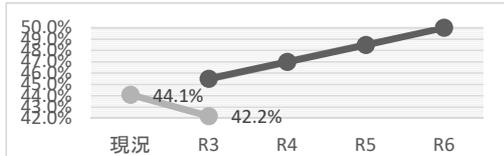
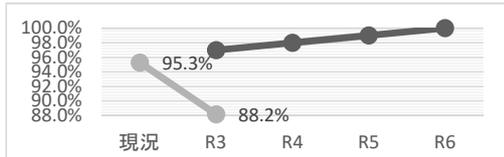
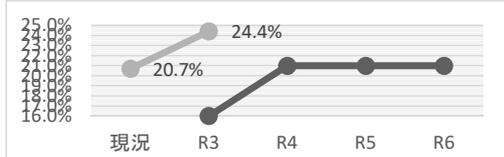
有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方  
 (1 魅力ある学校づくりの推進)

評価者名	卯月 由佳 (国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官)
評価意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『岡山県長期欠席・不登校対策スタンダード増補版』には、<u>児童生徒の思いや考えに配慮した居場所づくりと学習支援のポイントがまとめられ、有意義です。学校への専門家の派遣などを拡充してきたことも評価できます。</u></li> <li>・教師の授業力の向上について、『教育施策の概要』では「個に応じたきめ細かい指導や、探究的な学びを充実」と書かれていますが、<u>協働的な学びに関するビジョンももう少し明確になるとよいと考えられます。</u></li> </ul>
県教委の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別室における不登校児童生徒の個々の状況に応じた支援は不登校対策に大変有効であると考えており、引き続き、『岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード増補版』を基に、県下にノウハウの普及を図ってまいります。併せて、専門家の積極的な活用も促進してまいります。</li> <li>・総合的な学習(探究)の時間等を中心に、児童生徒が課題を自分事として捉え、他者と協働しながら課題解決を図るような探究的な学習の実践を推進しているところですが、御指摘を踏まえ、協働的な学びに関するビジョンが明確になるよう『教育施策の概要』における記載内容についても検討してまいります。</li> </ul>

評価者名	岡本 典久 (ライト電業株式会社代表取締役社長)
評価意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもたちが落ち着いて学習できる環境の整備」に向けて長期的に意義のある取組が継続されて、<u>うまく機能しない状況が発生している学級数も減少しており評価します。</u></li> <li>・「不登校を生まない学校づくりの推進」においては目標指標を、小・中・高等学校における不登校の出現割合の全国平均との差に変更されているが<u>これまでの児童生徒1千人当たりの出現割合の方が現状把握しやすいと考えます。全国での不登校の出現割合が増えていて、岡山も同様であると思いますがなんとか減らす施策を実施すべきと考えます。</u></li> </ul>
県教委の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級がうまく機能しない状況が再び発生しないよう、前年度の支援員配置校については、年度初めからフォローアップ訪問を行うなどの工夫を行っております。引き続き、課題のある学校に早期の段階から学級サポートリーダー(児童福祉・保健・特別支援教育等の専門家からなる専門指導員)等を派遣したり、教育支援員等を配置するなど、校内体制の構築を図ってまいります。</li> <li>・不登校の出現割合は、本県も全国平均も増加傾向にあるため、従来の目標指標では改善の状況等を把握しにくいことから、「全国平均との差」に変更しております。直近の調査において、出現割合は依然として高い数値を示しておりますが、全国平均を下回り、全国に比べ、増加率を低く抑えられているところであり、『岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード』の徹底や、医療の視点からのアプローチ、別室指導の普及など、全県的な長期欠席・不登校対策の推進を図り、新たな不登校を生まないための取組を徹底してまいります。</li> </ul>

評価者名	進藤 貴子（川崎医療福祉大学医療福祉学部教授）
評 価 意 見	<p>・不登校出現率、落ち着いた教室環境等の数値が改善していることに、取り組みの成果が感じられ、改善要因が明らかになればと思いました。その一方で、1人でも不登校を減らすとか、1日でも多く登校できる、という数だけに目を奪われることなく、<u>コンピテンシーや自己効力感を得て安定した社会参加・学校復帰ができるよう、目標に向けた適切な取り組みを進めていただけましたら幸いです。新たな冊子が現場でますます活用されることを願います。</u></p> <p>・学校は子どもの大切な成長の場でありセーフティネットであり、もう一つの家庭と言っても過言ではないと思えます。<u>学校で過ごす時間が充実した楽しいものであり、学校の先生を好きになれるよう、引き続き取り組みを進めていただけましたら幸いです。外部人材の活用が、教師の残業時間、心身不調の改善、良い教育指導につながっているかが見えると、チーム学校の意義や効果が明らかになるのではと思えます。</u></p> <p>・おかやま学びたい賞の応募数や各種研修への参加延べ人数が減っているのは、必ずしも取り組みの後退を表すわけではないのですが、<u>通常業務や通常授業に加えての負担になっていないかが気になりました。</u></p> <p>・<u>インクルーシブ教育システムは配慮を要する児童生徒のみではなく、一見障害がない児童生徒にとっても学びの意義が大きいことを、発信し続けていただけましたら幸いです。</u></p> <p>・<u>防災学習も各校種で適切に進んでいました。子どもたち自身ができる防災・復興協力を学ぶことは、コントロール感、貢献感などの心の成長にもつながっており、重要なことだと思えます。生活安全、交通安全教育も、変わらず行っていくと共に、被害に遭うのは注意不足や自業自得というスティグマに注意していただけましたら幸いです。</u></p>
県教委の考え方	<p>・不登校対策担当者を中心とした組織的な不登校対策や、別室指導の取組により、成果が現れていると考えており、特に別室指導においては、自己肯定感を養ったり、他者との関わりの中で自己有用感等を養ったりするなど社会的自立に向けた支援を行っております。今後も、『岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード増補版』を基に、別室指導のノウハウを県下に普及してまいります。</p> <p>・小中学校への事務作業等を支援する教師業務アシスタントの配置などを通じて、時間外在校等時間が縮減されるなどの効果が出ており、教員自身の心身の健康維持はもとより、教員が学習指導等に専念できる時間の確保を進めております。その上で、授業改善や校内指導体制の確立を通して、児童生徒が学校で過ごす時間が充実したものとなるよう、取組をさらに推進してまいります。</p> <p>・おかやま学びたい賞について、募集期間が短かったために、応募校数が減少してしまいましたが、今年度は、募集期間を十分確保するとともに、学習のまとめに活用しやすいような募集時期に変更するなど、学校が応募しやすいよう配慮して実施してまいります。</p> <p>・障害がない児童生徒にとっても、互いのことを正しく理解し、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ機会となることから、今後もインクルーシブ教育に関する理解が一層深まるよう、居住地校交流の実施ガイドやリーフレットの活用について周知するとともに、インクルーシブ教育フォーラムを開催して情報発信してまいります。</p> <p>・学校における安全教育（生活安全、交通安全、防災安全）は、各校で作成する学校安全計画に基づき計画的に実施しております。また、被害が発生してしまった場合においても、専門家と連携して、被害者等の心のケアを行うとともに、被害者の行動への非難などにつながることをないよう指導してまいります。</p>

## 2 学びのチャレンジ精神の育成

2 - (1)	夢を育む教育やキャリア教育・職業教育の推進																
<p>〈主な取組〉  <b>●夢を育む教育の推進 ●キャリア教育の推進 ●職業教育の推進</b></p>																	
<p>(目標指標)          将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 (小学校)</p> 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">65.9%</td> <td>目標値</td> <td>67.0%</td> <td>68.0%</td> <td>69.0%</td> <td>70.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>61.3%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	65.9%	目標値	67.0%	68.0%	69.0%	70.0%	実績値	61.3%	-	-	-
現況値	R3	R4	R5	R6													
65.9%	目標値	67.0%	68.0%	69.0%	70.0%												
	実績値	61.3%	-	-	-												
<p>(目標指標)          将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 (中学校)</p> 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">44.1%</td> <td>目標値</td> <td>45.5%</td> <td>47.0%</td> <td>48.5%</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>42.2%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	44.1%	目標値	45.5%	47.0%	48.5%	50.0%	実績値	42.2%	-	-	-
現況値	R3	R4	R5	R6													
44.1%	目標値	45.5%	47.0%	48.5%	50.0%												
	実績値	42.2%	-	-	-												
<p>(目標指標)          インターンシップや企業訪問等を体験した高校生の割合</p> 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">95.3%</td> <td>目標値</td> <td>97.0%</td> <td>98.0%</td> <td>99.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>88.2%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	95.3%	目標値	97.0%	98.0%	99.0%	100.0%	実績値	88.2%	-	-	-
現況値	R3	R4	R5	R6													
95.3%	目標値	97.0%	98.0%	99.0%	100.0%												
	実績値	88.2%	-	-	-												
<p>(目標指標)          職業教育技術顕彰被顕彰者の割合</p> 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">20.7%</td> <td>目標値</td> <td>16.0%</td> <td>21.0%</td> <td>21.0%</td> <td>21.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>24.4%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	20.7%	目標値	16.0%	21.0%	21.0%	21.0%	実績値	24.4%	-	-	-
現況値	R3	R4	R5	R6													
20.7%	目標値	16.0%	21.0%	21.0%	21.0%												
	実績値	24.4%	-	-	-												
<p>令和3年度中における取組・成果          ・課題</p>	<p><b>●夢を育む教育の推進 ●キャリア教育の推進 ●職業教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学生が居住する地域を題材に学習に取り組んだ成果を募集し、表彰する「おかやま学びたい賞」を実施（応募校数：②小学校32校⇒③23校、②中学校17校⇒③10校）（再掲）</li> <li>・「高校生探究フォーラム」の実施により、高校生の探究活動の成果発表の場を設けるとともに、意見交換による学びの深化を促進（再掲）</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、インターンシップ等の機会は制限されたが、岡山労働局と連携して作成した「事業所PRシート」を活用し、県内事業所等の情報を知る機会を提供</li> <li>・生徒の技術・技能の習熟、目的意識や学習意欲の向上のため、職業資格取得者等を顕彰</li> <li>・自己決定の場のある課題解決型学習（PBL）の積極的な実施を働き掛け、各教科等での学習において、学びの原動力となる「夢育」の推進が必要</li> </ul>																
<p>本報告書作成時点の対応状況</p>	<p><b>●夢を育む教育の推進 ●キャリア教育の推進 ●職業教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら課題設定や解決に向けての道筋を考えさせる学習を推進するため、岡山型課題解決学習（PBL）の考え方や学習過程をまとめたガイドブックを作成予定（再掲）</li> <li>・小・中学生に向けた夢への実現に向けたメッセージ動画を作成予定（再掲）</li> <li>・「おかやま学びたい賞」の作品を募集し、令和5年2月に「おかやま学びたい賞フォーラム」を開催予定（再掲）</li> <li>・就職を希望する生徒を対象に、岡山労働局等の協力の下、採用意欲のある企業の参加を募り、企業説明会（高校生のためのジョブフェア）を、岡山、倉敷、津山の3会場で7月に実施</li> <li>・岡山県教育委員会と県内経済6団体との包括連携協定を8月に締結し、県立高等学校等における産業界と連携した専門的かつ協力的な学びの充実を図るとともに、生徒が企業をよりよく知る機会を充実させることで、地域の発展を担う人材の育成を推進</li> <li>・「高校生探究フォーラム」の実施により、引き続き高校生の探究活動の成果発表の場を設けるとともに、意見交換による学びの深化を促進（再掲）</li> <li>・岡山大学と協働で、正課外活動を通じて、高校生や大学生といった次世代が、ともに夢を育み、主体的に学ぶ場を提供する「おかやま夢育イニシアチブ」事業を新たに開始（再掲）</li> </ul>																

2 - (2) 子どもたちの学力が伸びる仕組みづくり																																							
<b>〈主な取組〉</b> ●家庭学習指導の充実や補充学習への支援 ●高等学校における学力の向上 ●ICTの利活用																																							
(目標指標) 授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合(小学校) <table border="1"> <tr><th>年次</th><td>現況</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>割合</th><td>72.1%</td><td>67.1%</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td>72.3%</td><td>72.5%</td><td>72.7%</td><td>73.0%</td></tr> </table>	年次	現況	R3	R4	R5	R6	割合	72.1%	67.1%				目標値		72.3%	72.5%	72.7%	73.0%	<table border="1"> <tr><th>現況値</th><td>72.1%</td><th>R3</th><td>72.3%</td><th>R4</th><td>72.5%</td><th>R5</th><td>72.7%</td><th>R6</th><td>73.0%</td></tr> <tr><th>実績値</th><td></td><td>67.1%</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	現況値	72.1%	R3	72.3%	R4	72.5%	R5	72.7%	R6	73.0%	実績値		67.1%	-	-	-	-	-	-	-
年次	現況	R3	R4	R5	R6																																		
割合	72.1%	67.1%																																					
目標値		72.3%	72.5%	72.7%	73.0%																																		
現況値	72.1%	R3	72.3%	R4	72.5%	R5	72.7%	R6	73.0%																														
実績値		67.1%	-	-	-	-	-	-	-																														
(目標指標) 授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合(中学校) <table border="1"> <tr><th>年次</th><td>現況</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>割合</th><td>64.6%</td><td>64.9%</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td>66.4%</td><td>74.0%</td><td>75.0%</td><td>76.0%</td></tr> </table>	年次	現況	R3	R4	R5	R6	割合	64.6%	64.9%				目標値		66.4%	74.0%	75.0%	76.0%	<table border="1"> <tr><th>現況値</th><td>64.6%</td><th>R3</th><td>66.4%</td><th>R4</th><td>74.0%</td><th>R5</th><td>75.0%</td><th>R6</th><td>76.0%</td></tr> <tr><th>実績値</th><td></td><td>64.9%</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	現況値	64.6%	R3	66.4%	R4	74.0%	R5	75.0%	R6	76.0%	実績値		64.9%	-	-	-	-	-	-	-
年次	現況	R3	R4	R5	R6																																		
割合	64.6%	64.9%																																					
目標値		66.4%	74.0%	75.0%	76.0%																																		
現況値	64.6%	R3	66.4%	R4	74.0%	R5	75.0%	R6	76.0%																														
実績値		64.9%	-	-	-	-	-	-	-																														
(目標指標) 授業以外で平日に全く又はほとんど学習しない生徒の割合(高等学校) <table border="1"> <tr><th>年次</th><td>現況</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>割合</th><td>18.8%</td><td>15.0%</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td>17.2%</td><td>15.0%</td><td>15.0%</td><td>15.0%</td></tr> </table>	年次	現況	R3	R4	R5	R6	割合	18.8%	15.0%				目標値		17.2%	15.0%	15.0%	15.0%	<table border="1"> <tr><th>現況値</th><td>18.8%</td><th>R3</th><td>17.2%</td><th>R4</th><td>15.0%</td><th>R5</th><td>15.0%</td><th>R6</th><td>15.0%</td></tr> <tr><th>実績値</th><td></td><td>15.0%</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	現況値	18.8%	R3	17.2%	R4	15.0%	R5	15.0%	R6	15.0%	実績値		15.0%	-	-	-	-	-	-	-
年次	現況	R3	R4	R5	R6																																		
割合	18.8%	15.0%																																					
目標値		17.2%	15.0%	15.0%	15.0%																																		
現況値	18.8%	R3	17.2%	R4	15.0%	R5	15.0%	R6	15.0%																														
実績値		15.0%	-	-	-	-	-	-	-																														
令和3年度中における取組・成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭学習指導の充実や補充学習への支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・公立小・中学校に地域人材を支援員として配置し、放課後の補充学習等を支援することで児童生徒の基礎学力や学習習慣の定着を推進(配置校②243校⇒③235校)</li> <li>・家庭学習習慣の定着のため学校用指導資料の活用を小・中学校の全教員に徹底するとともに、家庭用資料を保護者に提示することで、家庭学習を質的・量的に充実</li> <li>・学力の定着が不十分な児童生徒の学習意欲の向上のため、授業の質の向上や補充学習の充実が必要</li> </ul> </li> <li>●高等学校における学力の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高校生のための学びの基礎診断」の結果を基に、各校の学力分析や授業改善に係る指導助言を実施したことで、成績下位層の年次進行による増加割合が減少</li> <li>・授業外における学習時間は、二極化傾向にあり、基礎基本の定着に向けた学習時間の改善等が必要</li> </ul> </li> <li>●ICTの利活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のICT活用指導力向上の取組を支援するため「教科等におけるICT活用実践事例集STAGE3(第二版)」にまとめ、県内に発信・普及</li> <li>・校内や中学校区、市町村において共通理解を図り、小・中学校を通して体系的な育成を図ることが必要</li> </ul> </li> </ul>																																						
本報告書作成時点の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭学習指導の充実や補充学習への支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後に加え、朝学習の時間や休憩時間等に補充学習を行うことで支援を必要とする児童生徒の補充学習への参加を促進</li> <li>・家庭学習のスタンダード増補版「家庭学習指導のすすめ」を基に、授業→家庭学習→小テスト→放課後等の補充学習の短期サイクルを丁寧に回し、学習上のつまづきを確実に解消</li> </ul> </li> <li>●高等学校における学力の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高校生のための学びの基礎診断」の結果を基に、各校の学力分析や授業改善に係る指導助言を実施するとともに、10月に合同分析会を開催し、学力分析の結果を各校にフィードバックするとともに、学力向上に向けた好事例の共有や授業改善用の方策についての情報交換、協議を行う予定</li> </ul> </li> <li>●ICTの利活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の小・中学校で実践される取組を収集し、情報共有を推進</li> </ul> </li> </ul>																																						

## 2 - (3) 国際的に活躍できる人材の育成

### 〈主な取組〉

- 児童生徒の英語力の向上
- 海外留学や国際交流の促進
- 我が国や郷土の伝統・文化を理解する教育の推進

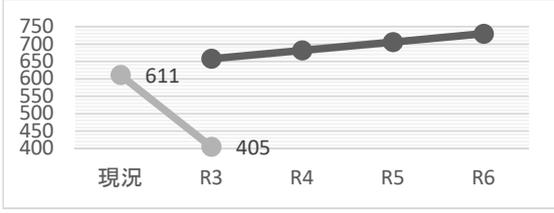
(目標指標)	現況値	R3	R4	R5	R6
中学校3年生で英検3級程度以上の英語力を有する生徒の割合 	43.5%	48.0%	52.0%	56.0%	60.0%
	実績値	43.7%	—	—	—
(目標指標)	現況値	R3	R4	R5	R6
高等学校3年生で英検準2級程度以上の英語力を有する生徒の割合 	46.8%	51.0%	54.0%	57.0%	60.0%
	実績値	48.8%	—	—	—
(目標指標)	現況値	R3	R4	R5	R6
県立高校生の海外留学人数 	380人	110人	230人	310人	380人
	実績値	1人	—	—	—
(目標指標)	現況値	R3	R4	R5	R6
インターネットを介して海外の学校や大学等と直接交流をしている県立高校の数 	7校	25校	34校	43校	52校
	実績値	29校	—	—	—

令和3年度中における取組・成果・課題

- 児童生徒の英語力の向上
  - ・ 小学校教員へのネイティブ・スピーカー等による英会話体験研修と、中学校英語担当教員への英語力向上研修を、英会話スクール等民間の力を活用して実施
  - ・ 中学校新学習指導要領の全面実施を踏まえ、中学校の英語授業でICT教材を活用し、生徒のコミュニケーションの意欲や実践的な英語力の向上を推進
  - ・ 生徒の英語による発話量、日常的に英語に触れる機会の増加を通じて、更なる英語力の向上が必要
- 海外留学や国際交流の促進
  - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外姉妹校の新規開拓には至らなかったものの、オンラインを活用して国際交流を実施
  - ・ 感染症の収束を見据え、留学支援制度の周知などを通じて、海外留学促進の機運醸成が必要

本報告書作成時点の対応状況

- 児童生徒の英語力の向上
  - ・ 小学校教員へのネイティブ・スピーカー等による英会話体験研修と、中学校英語担当教員への英語力向上研修を、英会話スクール等民間の力を活用して実施
- 海外留学や国際交流の促進
  - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、オンライン国際交流コーディネーター配置事業や高校生留学支援事業等により、オンラインを活用した海外の学校等との国際交流の促進や海外姉妹校の新規開拓に取り組むとともに、海外進学に向けた民間の奨学金制度を周知

2 - (4)	Society 5.0に向けた人材の育成																		
<主な取組> ●科学技術教育の推進 ●Society 5.0時代に対応した教育の推進 ●問題発見・解決的な学習活動の充実																			
(目標指標) 全国規模の理数・情報・政策提案等のコンテストへの県立高校生の参加者数		現況値		R3	R4	R5	R6												
 <table border="1" data-bbox="156 427 710 640"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現況</td> <td>611</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>405</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>730</td> </tr> </tbody> </table>		年次	参加者数	現況	611	R3	405	R4	-	R5	-	R6	730	611人	目標値	658人	682人	706人	730人
年次	参加者数																		
現況	611																		
R3	405																		
R4	-																		
R5	-																		
R6	730																		
令和3年度中における取組・成果・課題		●科学技術教育の推進 ・生徒が団体で協力して科学技術・理科・数学等における複数分野の競技に取り組むことを通じて、科学に関するさらなる興味関心の高揚を推進 (サイエンスチャレンジ岡山の参加者：②24校24チーム182名 ⇒ ③28校37チーム276人) ・全国規模のコンテストの情報をわかりやすく集約して示すとともに、情報にアクセスしやすい行事等を通じてはたらきかけることが必要																	
本報告書作成時点の対応状況		●科学技術教育の推進 ・全国規模のコンテストの情報をホームページ等で周知するとともに、プログラミングコンテスト事業に参加する生徒に当該情報を含めたコンテスト等の情報提供 ・サイエンスチャレンジ岡山を11月に開催予定																	

## 有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方 (2 学びのチャレンジ精神の育成)

評価者名	卯月 由佳（国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官）
評価意見	・『家庭学習指導のすすめ』にある、 <u>授業改善を図り、家庭学習につなげるという視点は重要です。ただ、そこで小テストに向けた復習、次の授業への予習というサイクルを推奨するだけでなく、子どもが面白い、探究したいと思えるような課題設定の工夫についても盛り込むことが望ましいです。</u>
県教委の考え方	・今年度実施した全国学力・学習状況調査において、「主体的な学び」の肯定的回答割合が減少していることも踏まえ、課題解決型学習（PBL）の積極的な実施の働き掛けなどを通じて、各教科等での学習における課題設定を工夫するとともに、授業と家庭学習のつながりを説明したり、取り組んだ家庭学習について丁寧にフィードバックするなど、学習意欲を引き出せるような取組を推進してまいります。
評価者名	岡本 典久（ライト電業株式会社代表取締役社長）
評価意見	・郷土岡山を愛し、より良い社会づくりに積極的に貢献する人間を育てるためにも、 <u>「夢育」の考え方をますます強化できるよう、ICTを効果的に活用した学習活動・GIGAスクール構想の早期実現に向けて確実な活動を期待します。</u>
県教委の考え方	・GIGAスクール構想の実現に向け、引き続き、夢育の取組の中で、実社会・実生活に関わる自分事として捉えることのできる課題を設定し、情報の収集、整理、分析の場面において、ICT活用を進めるなど、学校のICT環境を最大限に活用し、従来の教育実践とICTを適切に組み合わせることで、資質・能力等を育成できるよう取り組んでまいります。
評価者名	進藤 貴子（川崎医療福祉大学医療福祉学部教授）
評価意見	・夢育が実現するためにも、 <u>夢や気概を持った大人のモデルが子どもの身近にあるよう、世代間交流が重要であると思います。夢育の方法論の具体化とその結果の検証を、ぜひお願いします。「落ち着いて学べる環境づくり」は、学校にも家庭にも同じことが言えると思います。家庭の階層によらず、子どもが机に向かう自分の時間をもつことを尊重できる社会に、岡山県がなれることを期待します。</u> ・Society5.0における健全な暮らしは大人たちも模索中であり、次世代の子どもたちに大きく期待しています。海外留学の機会が減っていることは残念ですが、 <u>インターネットでの海外との交流が工夫されているのは素晴らしいと感じます。インターネットでの海外との交流は、よりコストがかからないことから、参加できる生徒の裾野が広がることを期待しています。</u>
県教委の考え方	・子どもたちが夢や目標について自らの気持ちに向き合ったり、将来の可能性を膨らませたりする機会を創出するために、世代間交流は重要だと考えており、総合的な学習（探究）の時間等を中心に、地域や企業に出向いて、様々な年代の人と触れ合う機会を設けるとともに、現在作成している岡山型課題解決学習の考え方や学習過程をまとめたガイドブックも活用しながら、夢育を推進してまいります。また、どのような家庭環境であっても、一定の学力を身に付けさせることが学校教育の責務であると考えており、基礎・基本を定着させる授業改善や、定着が不十分な子どもへの放課後補充学習を行うなど、学力の保障や学習時間の確保に引き続き努めてまいります。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、オンラインを活用した海外の学校との交流のさらなる促進を図るとともに、引き続き海外留学への機運の醸成に努めてまいります。

### 3 家庭・地域の教育力の向上

3 - (1)	家庭・地域の教育力の向上による、子どもたちの生活習慣・学習習慣の定着																	
<p>〈主な取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者への家庭教育に関する多様な学習プログラムや学習機会の提供</li> <li>●家庭教育に関する相談体制の充実</li> </ul>																		
<p>(目標指標) 家庭教育企業出前講座実施数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">57件</td> <td>目標値</td> <td>70件</td> <td>80件</td> <td>90件</td> <td>100件</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>67件</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		現況値		R3	R4	R5	R6	57件	目標値	70件	80件	90件	100件	実績値	67件	-	-	-
現況値		R3	R4	R5	R6													
57件	目標値	70件	80件	90件	100件													
	実績値	67件	-	-	-													
令和3年度中における取組・成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者への家庭教育に関する多様なプログラムや学習機会の提供</li> <li>・非認知能力の育成に向け、就学前の子どもを持つ保護者を対象とした『非認知能力』の伸ばし方に係る研修プログラムの開発及び研修会を実施</li> <li>・非認知能力の育成に係る研修プログラムを指導できる人材の育成が必要</li> <li>・子育てのヒント等家庭教育に関わる講座を行う講師を企業に派遣 (②58件⇒③67件)</li> <li>・実施企業の増加に向け、ニーズに合わせた講座形態の検討、ホームページ等による周知が必要</li> </ul>																	
本報告書作成時点の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者への家庭教育に関する多様なプログラムや学習機会の提供</li> <li>・非認知能力の育成に向け、保護者を対象とした非認知能力育成支援講座と家庭教育支援関係者等を対象とした人材養成研修会を実施</li> <li>・コロナ禍でも企業が実施できるよう、企業のニーズに合わせた講座の形態(オンライン型・短時間・少人数での実施等)を検討するとともに、チラシやホームページ等で県内の企業に周知</li> </ul>																	

3 - (2)	地域住民の参画による学校運営協議会・地域学校協働活動の取組の推進																	
<p>〈主な取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域と学校の協働の推進</li> </ul>																		
<p>(目標指標) 地域学校協働活動推進員を委嘱している市町村数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">8市町村</td> <td>目標値</td> <td>17市町村</td> <td>20市町村</td> <td>23市町村</td> <td>25市町村</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>19市町村</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		現況値		R3	R4	R5	R6	8市町村	目標値	17市町村	20市町村	23市町村	25市町村	実績値	19市町村	-	-	-
現況値		R3	R4	R5	R6													
8市町村	目標値	17市町村	20市町村	23市町村	25市町村													
	実績値	19市町村	-	-	-													
令和3年度中における取組・成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域と学校の協働の推進</li> <li>・国の補助事業「地域と学校の連携・協働体制構築事業」を活用し、市町村の財政支援を実施 (②25市町村⇒③24市町村)</li> <li>・地域と学校の連携・協働推進プロジェクトチーム会議を通して、県内の連携状況や各課の取組状況等の情報を共有</li> <li>・地域学校協働活動推進員を委嘱する市町村数増加のため、地域と学校の連携の好事例を広く紹介したり連携・協働の重要性を伝えたりしていくことが必要</li> </ul>																	
本報告書作成時点の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域と学校の協働の推進</li> <li>・地域と学校の連携・協働や地域学校協働活動推進員の重要性を、市町村担当者や学校関係者、地域住民等へ伝える研修会を年間8回開催予定。</li> <li>・おかやま子ども応援事業を実施し、地域学校協働活動への財政的な支援を実施 (③24市町村⇒④24市町村)</li> </ul>																	

## 有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方 (3 家庭・地域の教育力の向上)

評価者名	卯月 由佳（国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官）
評価意見	<p>・「非認知能力」と括られる能力の形成において就学前の家庭環境が重要なことは確かです。しかし、<u>この能力を家庭教育で育成するよう求める規範は、育児負担を抱える家庭にプレッシャーを与えかねないことも懸念されます。</u>そのため、社会で「非認知能力」への関心が高まる中、これをどう理解し、どう向き合えばよいかの助言を含めた、家庭に寄り添った支援が必要だと考えます。</p>
県教委の考え方	<p>・非認知能力の育成に関しては、保護者及び家庭教育支援者向けの研修において、プレッシャーを感じることなく非認知能力育成の支援ができるよう丁寧に説明するとともに、家庭だけでなく、学校や地域を含めた社会全体で推進できるよう、関係機関と連携しながら学びの機会の提供に努めてまいります。</p>
評価者名	岡本 典久（ライト電業株式会社代表取締役社長）
評価意見	<p>・<u>保護者への家庭教育に関する多様なプログラムや学習機会の提供は、家庭の教育力を高めるためには非常に有効な手段だ</u>と思います。コロナ禍で家庭教育企業出前講座実施数が目標回数にわずかに届いていません。<u>今年度の達成を目指して具体的な活動をお願いします。</u></p>
県教委の考え方	<p>・引き続き家庭教育に関する保護者への支援を行うとともに、家庭教育企業出前講座に関しては、関係機関と連携し、様々な広報媒体を使って県内の企業に事業の周知及び活用依頼を行っておりますが、今後、経済6団体と新たに締結した包括連携協定も活用しながら企業へ積極的にはたらきかけるなどし、目標回数を達成できるよう努めてまいります。</p>
評価者名	進藤 貴子（川崎医療福祉大学医療福祉学部教授）
評価意見	<p>・<u>非認知能力の育成に資する家庭環境についての具体的な内容が周知され、広く理解を得られるとありがたい</u>と思います。安全で、落ち着いて自分の時間を持って、朗らかな前向きな気持ちで居ることができる家庭環境が、子どもの良い育ちの場になると思います。そのためには大人の男女共同参画の意識や、健全なワークライフバランスが不可欠で、<u>他の様々な施策と関連づけて展開できると相乗効果が得られる</u>ように思いました。</p>
県教委の考え方	<p>・子どもたちの夢を育み、それに挑戦していく経験を通して、意欲や自信などの「自分を高める力」を育てる「夢育」において、非認知能力の育成を推進しておりますが、その中では自己肯定感が大きく関わっており、自己肯定感を育む環境づくりの重要性について周知していくとともに、今年度設置した部局横断の家庭教育支援施策推進会議で関係部署同士の施策や事業を互いに把握しながら、より効果的な連携ができるよう努めてまいります。</p>

## 4 規範意識と思いやりの心、健やかな体の育成

### 4- (1) 道徳教育を中心とした規範意識の確立

〈主な取組〉

●道徳教育の充実 ●体験活動の推進

(目標指標) 「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合 (小学校)		現況値	R3	R4	R5	R6
<p>44.7%</p> <p>46.6%</p>	44.7%	47.0%	48.0%	49.0%	50.0%	
	実績値	46.6%	-	-	-	
(目標指標) 「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合 (中学校)		現況値	R3	R4	R5	R6
<p>36.5%</p> <p>41.9%</p>	36.5%	41.0%	44.0%	47.0%	50.0%	
	実績値	41.9%	-	-	-	
令和3年度中における取組・成果・課題	<p>●道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育推進教員等を対象に、道徳教育における課題の解決等に関する研修を実施し、教員の指導力を養成 (全学級で道徳の授業公開を実施した学校の割合 小：②62.6%→③61.9% 中：②56.0%→③58.6%)</li> <li>郷土の偉人を題材とした授業パッケージを作成し、県内中学校に提供することにより、中学校道徳科における多様な授業実践を支援</li> <li>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の事例の普及を通じた道徳教育の更なる充実が必要</li> </ul>					
本報告書作成時点の対応状況	<p>●道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、道徳教育の実践的な研修、郷土資料の作成を行うとともに、授業の好事例を普及</li> </ul>					

### 4- (2) いじめや暴力行為等への対策の推進

〈主な取組〉

●学校の組織的取組の充実 ●関係機関との連携

(目標指標) 小・中・高等学校における暴力行為の発生割合の全国平均との差		現況値	R3	R4	R5	R6
<p>0.4</p> <p>-1</p>	+0.4件	+0.2件	+0.1件	±0.0件	±0.0件	
	実績値	-1.0件	-	-	-	
令和3年度中における取組・成果・課題	<p>●学校の組織的取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動が見え始めた学校に集中指導員を早期から派遣し、継続的に助言・支援を行い、学校の指導体制を強化 (集中指導員派遣校数：②延べ536校 → ③延べ441校) (再掲)</li> <li>アプリを利用した匿名によるいじめ等の相談・報告システムを全県立学校で活用し、いじめの早期発見・早期対応を実施 (いじめに関する相談件数：②28件→③12件)</li> <li>引き続き、問題行動の初期段階を確実に捉え、早期の解決に向けた組織的な対応の充実が必要</li> </ul> <p>●関係機関等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラー (SC) を全公立小・中・中等教育学校 (岡山市を除く) 及び県立高校に配置</li> <li>早期対応につなげるためにスクールソーシャルワーカー (SSW) による定期的な巡回訪問を実施 (SSWの対応件数：②1,337件 → ③2,108件)</li> <li>SC、SSWの優秀な人材の確保が課題</li> </ul>					
本報告書作成時点の対応状況	<p>●学校の組織的取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動が見え始めた学校に集中指導員を早期から派遣し、継続的に助言・支援を行い、学校の指導体制を強化</li> <li>アプリを利用した匿名によるいじめ等の相談・報告システムを全県立学校で活用し、いじめの早期発見・早期対応を実施</li> </ul> <p>●関係機関等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SSWについて、全員有資格者を任用 (再掲)</li> <li>スーパーバイザーによる指導助言や研修会 (全体研修、新人研修等) の実施により、SC、SSWの対応力を強化 (再掲)</li> </ul>					

4 - (3) スマホ・ネット等青少年を取り巻く問題への対応																	
<主な取組> <b>●青少年の健全育成等の推進 ●スマホ・ネット対策の推進</b>																	
(目標指標) スマートフォン等の利用に関して「家庭のルールがある」と回答した児童生徒の割合(小学校)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">61.9%</td> <td>目標値</td> <td>63.2%</td> <td>63.8%</td> <td>64.4%</td> <td>65.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>64.9%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	61.9%	目標値	63.2%	63.8%	64.4%	65.0%	実績値	64.9%	-	-	-
現況値	R3	R4	R5	R6													
61.9%	目標値	63.2%	63.8%	64.4%	65.0%												
	実績値	64.9%	-	-	-												
(目標指標) スマートフォン等の利用に関して「家庭のルールがある」と回答した児童生徒の割合(中学校)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">49.4%</td> <td>目標値</td> <td>51.7%</td> <td>52.8%</td> <td>53.9%</td> <td>55.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>52.0%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	49.4%	目標値	51.7%	52.8%	53.9%	55.0%	実績値	52.0%	-	-	-
現況値	R3	R4	R5	R6													
49.4%	目標値	51.7%	52.8%	53.9%	55.0%												
	実績値	52.0%	-	-	-												
令和3年度中における取組・成果・課題	<b>●スマホ・ネット対策の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OKAYAMAスマホサミット2021を開催し、県内の公私立の中高一貫校と保護者が参加。それぞれの学校における主体的な取組について協議や課題解決の取組を進め、その成果を発表することで、生徒が自ら問題解決に取り組む機運を醸成</li> <li>・事業者別・機種別のペアレンタルコントロールの設定動画や啓発リーフレットを入学説明会や保護者面談等で周知・活用し、家庭のルールづくりを推進</li> <li>・児童生徒への情報モラル教育の充実とともに、家庭でのルールづくりの更なる促進が必要</li> </ul>																
本報告書作成時点の対応状況	<b>●スマホ・ネット対策の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OKAYAMAスマホサミット2022を開催し、スマホやネットの適切な利用や日常生活への有効活用について協議等を行い、生徒の主体的な活動を促進</li> <li>・事業者別・機種別のペアレンタルコントロールの設定動画や啓発リーフレットを入学説明会や保護者面談等で周知・活用し、家庭のルールづくりを推進</li> </ul>																

4 - (4) 郷土愛の醸成																	
<主な取組> <b>●地域への理解を深める教育の推進</b>																	
(目標指標) 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合(小学校)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">70.7%</td> <td>目標値</td> <td>72.0%</td> <td>73.0%</td> <td>74.0%</td> <td>75.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>57.3%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	70.7%	目標値	72.0%	73.0%	74.0%	75.0%	実績値	57.3%	-	-	-
現況値	R3	R4	R5	R6													
70.7%	目標値	72.0%	73.0%	74.0%	75.0%												
	実績値	57.3%	-	-	-												
(目標指標) 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合(中学校)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">51.9%</td> <td>目標値</td> <td>53.0%</td> <td>54.0%</td> <td>55.0%</td> <td>56.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>43.3%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	51.9%	目標値	53.0%	54.0%	55.0%	56.0%	実績値	43.3%	-	-	-
現況値	R3	R4	R5	R6													
51.9%	目標値	53.0%	54.0%	55.0%	56.0%												
	実績値	43.3%	-	-	-												
(目標指標) 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒の割合(県立高校生)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">58.4%</td> <td>目標値</td> <td>60.0%</td> <td>61.5%</td> <td>63.0%</td> <td>65.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>53.4%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値	R3	R4	R5	R6	58.4%	目標値	60.0%	61.5%	63.0%	65.0%	実績値	53.4%	-	-	-
現況値	R3	R4	R5	R6													
58.4%	目標値	60.0%	61.5%	63.0%	65.0%												
	実績値	53.4%	-	-	-												
令和3年度中における取組・成果・課題	<b>●地域への理解を深める教育の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の偉人を題材とした授業パッケージを作成し、県内中学校に提供することにより、中学校道徳科における多様な授業実践を支援(再掲)</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の事例の普及を通じた道徳教育の更なる充実が必要(再掲)</li> <li>・小・中学生が居住する地域を題材に学習に取り組んだ成果を募集し、表彰する「おかやま学びたい賞」を実施(応募校数:①小学校32校⇒③23校、②中学校17校⇒③10校)(再掲)</li> <li>・コロナ禍において制約はあるものの、発達段階に応じて、地域と連携した教育活動を推進し、子どもたちが地域で活躍する場の創出が必要</li> </ul>																
本報告書作成時点の対応状況	<b>●地域への理解を深める教育の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、道徳教育の実践的な研修、郷土資料の作成を行うとともに、授業の好事例を普及(再掲)</li> <li>・小・中学生に向けた夢への実現に向けたメッセージ動画を作成予定(再掲)</li> <li>・「おかやま学びたい賞」の作品を募集し、令和5年2月に「おかやま学びたい賞フォーラム」を開催予定(再掲)</li> </ul>																

4 - (5)	より良い社会づくりに参画する人材の育成																		
<b>〈主な取組〉</b> <b>● ボランティア教育の推進 ● 主権者教育・消費者教育の推進</b> <b>● 子どもたちが地域で活躍する場の創出</b>																			
<b>〔目標指標〕</b> 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」と回答した児童生徒の割合（小学校）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現況</td> <td>55.0%</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>52.0%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>57.0%</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>58.0%</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>59.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合	現況	55.0%	R3	52.0%	R4	57.0%	R5	58.0%	R6	59.0%	<b>現況値</b>  55.0%		R3	R4	R5	R6
年度	割合																		
現況	55.0%																		
R3	52.0%																		
R4	57.0%																		
R5	58.0%																		
R6	59.0%																		
<b>〔目標指標〕</b> 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」と回答した児童生徒の割合（中学校）		<b>現況値</b>  38.9%		R3	R4	R5	R6												
<b>〔目標指標〕</b> 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」と回答した生徒の割合（県立高校生）		<b>現況値</b>  61.3%		R3	R4	R5	R6												
令和3年度中における取組・成果・課題	<b>● ボランティア教育の推進</b> ・すべての県立高等学校において、学習・保育支援、地域のイベント補助、清掃活動などの社会貢献活動を実施 <b>● 子どもたちが地域で活躍する場の創出</b> ・小・中学生が居住する地域を題材に学習に取り組んだ成果を募集し、表彰する「おかやま学びたい賞」を実施（応募校数：①小学校32校⇒③23校、②中学校17校⇒③10校）（再掲） ・コロナ禍において制約はあるものの、発達段階に応じて、地域と連携した教育活動を推進し、子どもたちが地域で活躍する場の創出が必要（再掲）																		
本報告書作成時点の対応状況	<b>● ボランティア教育の推進</b> ・すべての県立高等学校において、学習・保育支援、地域のイベント補助、清掃活動などの社会貢献活動を実施予定（通年） <b>● 子どもたちが地域で活躍する場の創出</b> ・自ら課題設定や解決に向けての道筋を考えさせる学習を推進するため、岡山型課題解決学習（PBL）の考え方や学習過程をまとめたガイドブックを作成予定（再掲） ・小・中学生に向けた夢への実現に向けたメッセージ動画を作成予定（再掲） ・「おかやま学びたい賞」の作品を募集し、令和5年2月に「おかやま学びたい賞フォーラム」を開催予定（再掲）																		

4 - (6) 子どもたちの体力の向上																		
<主な取組> ●学校体育の充実 ●体力・運動習慣づくりの推進 ●スポーツを通じた規範意識の向上等																		
(目標指標) 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合 (小学校男子)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">70.7%</td> <td>目標値</td> <td>72.0%</td> <td>73.0%</td> <td>74.0%</td> <td>75.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>68.8%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値		R3	R4	R5	R6	70.7%	目標値	72.0%	73.0%	74.0%	75.0%	実績値	68.8%	-	-	-
現況値		R3	R4	R5	R6													
70.7%	目標値	72.0%	73.0%	74.0%	75.0%													
	実績値	68.8%	-	-	-													
(目標指標) 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合 (小学校女子)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">54.1%</td> <td>目標値</td> <td>55.5%</td> <td>57.0%</td> <td>58.5%</td> <td>60.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>51.6%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値		R3	R4	R5	R6	54.1%	目標値	55.5%	57.0%	58.5%	60.0%	実績値	51.6%	-	-	-
現況値		R3	R4	R5	R6													
54.1%	目標値	55.5%	57.0%	58.5%	60.0%													
	実績値	51.6%	-	-	-													
(目標指標) 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合 (中学校男子)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">63.6%</td> <td>目標値</td> <td>64.2%</td> <td>64.5%</td> <td>64.8%</td> <td>65.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>63.1%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値		R3	R4	R5	R6	63.6%	目標値	64.2%	64.5%	64.8%	65.0%	実績値	63.1%	-	-	-
現況値		R3	R4	R5	R6													
63.6%	目標値	64.2%	64.5%	64.8%	65.0%													
	実績値	63.1%	-	-	-													
(目標指標) 「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合 (中学校女子)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">49.1%</td> <td>目標値</td> <td>49.5%</td> <td>49.7%</td> <td>49.9%</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>46.3%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値		R3	R4	R5	R6	49.1%	目標値	49.5%	49.7%	49.9%	50.0%	実績値	46.3%	-	-	-
現況値		R3	R4	R5	R6													
49.1%	目標値	49.5%	49.7%	49.9%	50.0%													
	実績値	46.3%	-	-	-													
令和3年度中における取組・成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校体育の充実</li> <li>・小学校の体育授業の活性化と児童の体力向上を図るため、小学校教員が苦手意識を持ちやすい器械運動などの領域の体育授業に対して、指導教員の補助を行うスペシャルサポーターを派遣(23校31学級)</li> <li>・体育の授業改善により、児童の体力向上が図られるよう、県小学校体育連盟と連携・協力し、体育授業力アップモデル校を6校を指定し、研究を実施し、その成果を普及</li> <li>・運動が苦手な児童生徒や、運動時間数が少ない児童生徒への対策が必要</li> </ul>																	
本報告書作成時点の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校体育の充実</li> <li>・昨年度に引き続き、スペシャルサポーターを派遣し、運動が苦手な児童へ正しい動きを伝えることで運動が上手にできるようになり、児童が達成感や成功体験を得ることで、体育の授業が楽しいと感じられるようになる取組を実施(③23校31学級⇒④22校30学級)</li> <li>・県小学校体育連盟と連携を図り、「みんなでチャレンジランキング」の種目等について、運動が苦手な児童生徒や、運動時間数が少ない児童生徒でも、これまで以上に参加しやすい内容になるよう検討</li> </ul>																	

4 - (7) 子どもたちの健康の保持増進							
<主な取組> ●健康教育の推進 ●食育の推進							
(目標指標) 「朝ごはんを食べることは大切だ」と回答した児童生徒の割合(小学校)		現況値		R3	R4	R5	R6
		85.1%	目標値	87.6%	90.1%	92.6%	95.0%
			実績値	86.2%	-	-	-
(目標指標) 「朝ごはんを食べることは大切だ」と回答した児童生徒の割合(中学校)		現況値		R3	R4	R5	R6
		86.2%	目標値	88.4%	90.6%	92.8%	95.0%
			実績値	87.0%	-	-	-
令和3年度中における取組・成果・課題	●食育の推進 ・栄養教諭の専門性を生かした指導により、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることを目的に、津山市と共同研究を実施 ・成長期の食事の重要性や、活動に必要なエネルギーについて理解させるための活動が必要						
本報告書作成時点の対応状況	●食育の推進 ・部活動の場面において、栄養教諭と顧問が連携してスポーツ栄養に基づく食に関する指導を行い、成長期に応じて適切に発育発達し、パフォーマンスを最大限に発揮するよう実践研究を実施						

4 - (8) 人権教育の推進							
<主な取組> ●学校教育における人権教育の推進 ●家庭・地域における人権教育の推進							
(目標指標) 地域において人権教育・啓発を推進するために養成する指導者の数(累計)		現況値		R3	R4	R5	R6
		532人	目標値	582人	607人	632人	657人
			実績値	582人	-	-	-
令和3年度中における取組・成果・課題	●家庭・地域における人権教育の推進 ・人権教育・啓発の中心となる指導者の養成研修を実施し、さらに研修修了者を対象にしたスキルアップ講座を実施 (指導者養成講座：全4回・②27人修了⇒③23人修了、スキルアップ講座：全1回・②28人受講⇒③25人受講) ・PTAの指導者を対象に、人権に関する講演や実践発表、ワークショップ等の研修会を実施(参加者数：②488人⇒③488人) ・人権感覚や実践的な態度の獲得には参加体験型の研修などが効果的であることから、引き続きこうした取組の充実を図ることが必要						
本報告書作成時点の対応状況	●家庭・地域における人権教育の推進 ・人権教育・啓発の中心となる指導者を養成し、さらに修了者を対象にしたスキルアップ講座を実施(指導者養成講座：全4回、スキルアップ講座：全1回) ・PTAの指導者を対象に、人権に関する講演やワークショップ等の研修会を実施						

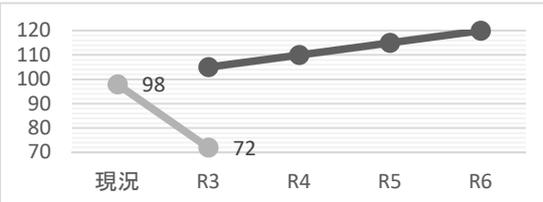
有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方  
 (4 規範意識と思いやりの心、健やかな体の育成)

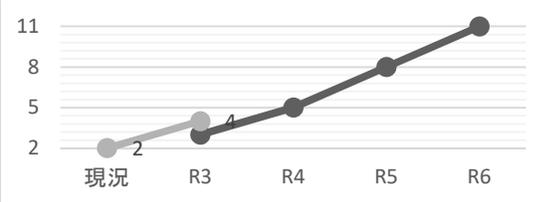
評価者名	卯月 由佳 (国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官)
評価意見	<p>・4-(2)の目標指標は、暴力行為等の「発生割合」からその「発生割合の全国平均との差」に変更されています。<u>これで岡山県の対策の成果が十分に見えるでしょうか。いじめへの組織的な対応が図られている点は重要であり、この問題の削減・根絶に向けて引き続き熱心に取り組んでいただきたいです。</u></p> <p>・4-(3)の目標指標は、<u>より現代的な意義のあるものに変更されたと思います。着実な向上を期待します。</u></p>
県教委の考え方	<p>・暴力行為等の発生割合は、本県も全国平均も増加傾向にあるため、従来の目標指標では改善の状況等を把握しにくいことから、「全国平均との差」に変更しております。直近の調査において、全国平均を下回るとともに、発生割合も減少しているところであり、今後も引き続き、課題の見え始める早期の段階から、集中指導員等を派遣したり、支援員を配置するなど、校内の生徒指導体制づくりの支援を行ってまいります。</p> <p>・スマホ等の所持率の増加に伴い、利用時間も増加傾向にありますが、学習への利用も広がっており、単に時間だけでなく利用内容を把握し、依存傾向にならないようにすることが重要と考えており、引き続き、関係機関と連携しながら、家庭のルールづくりの推進に努めてまいります。</p>

評価者名	岡本 典久 (ライト電業株式会社代表取締役社長)
評価意見	<p>・「人が困っている時は進んで助けている」の指標と、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」の指標でも、<u>中学校の割合が小学校・高校生よりも悪いという結果が出ています。小学校・中学校・高校生に個別に対策を考える必要もありますが、何故、中学生が一番低い数字になるのかを検証し、対策する必要があるのではないのでしょうか。</u></p>
県教委の考え方	<p>・御指摘の項目に関して、全国の平均についても小学校に比べ中学校の割合が低いという傾向があり、思春期における精神的な変化など、生徒の発達段階における特性の影響が考えられますが、今後、要因の検証に努めるとともに、地域に根ざした課題解決型学習などを推進することで、思いやりの心や社会貢献意識の育成に努めてまいります。</p>

評価者名	進藤 貴子（川崎医療福祉大学医療福祉学部教授）
評 価 意 見	<p>・令和3年度は、<u>地域行事への参加（4）、運動やスポーツが好きかどうか（6）の指標が、令和2年度以上に落ち込んでいるように見えます。新型コロナの影響が続き不活化が進行している印象があり、ウイズコロナの地域活動や運動・スポーツの方法を、意識的に考え創出する必要性が感じられました。</u></p> <p>・一方、困っている人を助ける意識（1）、いじめ・暴力行為の発生割合（2）、スマホ・ネットに関する家庭のルール（3）、地域や社会をよくするために何をすべきか（5）、朝ごはんの大切さ（7）、人権教育指導者数（8）では、維持または改善の方向にあり、<u>道徳観、健康意識、郷土愛を大切にす声かけや取り組みが地道に行われていることが感じられました。</u></p> <p>・<u>集中指導員、SC、SSW、運動のスペシャルサポーター等、多様な専門性をもった大人が多くの子童生徒に（問題の未然防止のためにも）関わっていただきたいです。</u></p>
県教委の考え方	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、いずれも現況値を下回っていることから、幅広い層の地域住民等が参画した緩やかなネットワーク形成を通じて、地域学校協働活動等を推進したり、体を動かす楽しさや喜びを味わえるような体育授業の実施を通じて、児童生徒の運動習慣の定着を図るなど、感染状況に留意しながらも、十分な活動を行えるよう、関連する施策を引き続き推進してまいります。</p> <p>・郷土の偉人に関する教材を活用した授業実践により、道徳教育の充実や郷土愛の醸成を図るとともに、栄養教諭による専門性を活かした指導により、食育を推進しており、目標指標に到達できるよう、今後も取組を継続してまいります。</p> <p>・学校における児童生徒の問題行動や不登校等の課題には、複雑な背景要因があり、教員だけでは解決が困難なケースも多くあることから、スペシャルサポーター等も含め、引き続き、こうした専門家の的確な見立て等により、効果的な支援につなげることができるよう活用を進めてまいります。</p>

## 5 生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興

5 - (1)	生涯学習活動の推進																													
<p>〈主な取組〉</p> <p>●学習成果の活用とより良い地域社会の形成 ●生涯学習活動を支援する環境づくり</p>																														
<p>(目標指標)</p> <p>生涯学習大学の連携機関数</p>  <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>現況</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>値</td> <td>98</td> <td>72</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年次	現況	R3	R4	R5	R6	値	98	72				<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">98機関</td> <td style="text-align: center;">目標値</td> <td style="text-align: center;">105機関</td> <td style="text-align: center;">110機関</td> <td style="text-align: center;">115機関</td> <td style="text-align: center;">120機関</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績値</td> <td style="text-align: center;">72機関</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値		R3	R4	R5	R6	98機関	目標値	105機関	110機関	115機関	120機関	実績値	72機関	-	-	-
年次	現況	R3	R4	R5	R6																									
値	98	72																												
現況値		R3	R4	R5	R6																									
98機関	目標値	105機関	110機関	115機関	120機関																									
	実績値	72機関	-	-	-																									
令和3年度中における取組・成果・課題	<p>●生涯学習活動を支援する環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県生涯学習センターにおいて、各機関と連携した多様な学習講座を開設し、県民に系統的・継続的な学習機会を提供する生涯学習大学「のびのびキャンパスおかやま」を開催</li> <li>・県内の大学や企業等に講座開設を働きかけたが、新型コロナウイルス感染症の影響により72機関、517講座にとどまった。しかし、コロナ禍においても県民の多様な学習機会を確保できるよう、オンラインを活用した講座登録を促進し、新たに49講座を開設</li> <li>・今後、オンライン講座の併用を促進することで、着実に学習機会の確保を行い、併せて、学習成果の活用に向けた取組の推進が必要</li> </ul>																													
本報告書作成時点の対応状況	<p>●生涯学習活動を支援する環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県生涯学習センターにおいて、本年度も引き続き、各機関と連携し、生涯学習大学「のびのびキャンパスおかやま」を開催（11月現在、64機関、342講座が登録）</li> <li>・コロナ禍においても多様な学習機会が確保されるよう、オンラインを活用した連携講座の登録を促進（11月現在、8講座がオンライン講座として登録）</li> </ul>																													

5 - (2)	文化創造活動の振興と文化財の保存・活用																													
<p>〈主な取組〉</p> <p>●文化に親しむ環境づくり ●文化財の保存・活用 ●県立博物館の機能充実等</p>																														
<p>(目標指標)</p> <p>文化財保存活用地域計画作成着手市町村数</p>  <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年次</th> <th>現況</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>値</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	年次	現況	R3	R4	R5	R6	値	2	4	5	8	11	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>現況値</th> <th></th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">2市町村</td> <td style="text-align: center;">目標値</td> <td style="text-align: center;">3市町村</td> <td style="text-align: center;">5市町村</td> <td style="text-align: center;">8市町村</td> <td style="text-align: center;">11市町村</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績値</td> <td style="text-align: center;">4市町村</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>	現況値		R3	R4	R5	R6	2市町村	目標値	3市町村	5市町村	8市町村	11市町村	実績値	4市町村	-	-	-
年次	現況	R3	R4	R5	R6																									
値	2	4	5	8	11																									
現況値		R3	R4	R5	R6																									
2市町村	目標値	3市町村	5市町村	8市町村	11市町村																									
	実績値	4市町村	-	-	-																									
令和3年度中における取組・成果・課題	<p>●文化財の保存・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内市町村の文化財保存活用地域計画の策定を推進するため、地域計画策定委員会に参画したり、文化財の保存に関する技術支援や情報提供等を実施</li> <li>・令和3年度末時点で、策定済2市（津山市、備前市）、策定中2市（瀬戸内市、美作市）</li> <li>・より多くの市町村での策定を目指し、未着手市町村への働きかけが必要</li> </ul>																													
本報告書作成時点の対応状況	<p>●文化財の保存・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地域計画策定委員会への参画や文化財の保存に関する技術支援や情報提供等を実施</li> <li>・県内市町村の文化財保存活用地域計画の策定状況は、令和4年11月時点で、策定済2市（津山市、備前市）、策定中3市（瀬戸内市、美作市、新見市）</li> </ul>																													

有識者による評価意見等及び教育委員会の考え方  
 (5 生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興)

評価者名	卯月 由佳 (国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官)
評価意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習大学の連携機関数はコロナの影響で伸び悩んだようですが、<u>着実な学習機会の確保に向けた取組は引き続きの拡充が期待されます。</u></li> <li>・<u>岡山県の文化財の保存、無形文化財の継承は将来に向けて非常に重要な課題であり、今後もより多くの市町村への働きかけを継続していただきたいです。</u></li> </ul>
県教委の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響下においても、県民に学習機会を提供することは重要と考えており、引き続き、生涯学習大学の連携機関数を増やしていけるよう、大学や企業等に働きかけてまいります。</li> <li>・文化財の保存・継承を計画的に進めるため、地域計画の策定について引き続き未着手の市町村に働きかけてまいります。</li> </ul>
評価者名	岡本 典久 (ライト電業株式会社代表取締役社長)
評価意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、一般の県民を一同に集めての講座開講は難しい状況と理解します。よって、現状進めようとしている<u>オンライン講座を充実して、県民に多様な学習機会の提供をお願いします。</u></li> </ul>
県教委の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や企業等に連携講座の登録を呼びかける際に、オンラインを活用した講座の登録が可能であることや、コロナの感染状況によって参集方式をオンライン方式へ変更することが可能であることを広く周知し、引き続き、県民に多様な学習機会の提供ができるよう努めてまいります。</li> </ul>
評価者名	進藤 貴子 (川崎医療福祉大学医療福祉学部教授)
評価意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでの学習機会が促進されたことは、コロナ禍の思いがけない産物でした。<u>生涯学習センターのオンライン講座のコンテンツは、どこかに保存されているのでしょうか。オンデマンド型のコンテンツは様々な活用方法があると思えます。</u>また、<u>リアルタイムでオンライン講座を受講できる環境の整備が広がることを期待します。</u></li> <li>・文化財の保存・活用では、<u>特色ある県内各地域の魅力が創出、発信され、観光や郷土愛につながることを期待しております。</u></li> </ul>
県教委の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習大学では、著作権による制約などにより、オンデマンド方式の講座の実施や、講座データの保存は困難ではありますが、リアルタイムで広く受講機会が確保できるよう、今後もオンライン講座等の活用にも努めてまいります。</li> <li>・特色ある県内各地域の魅力を創出、発信するため、地域計画の策定について引き続き未着手の市町村に働きかけてまいります。</li> </ul>

## 意見を頂いた有識者

職 名	氏 名
国立教育政策研究所 初等中等教育研究部総括研究官	卯 月 由 佳
ライト電業株式会社 代表取締役社長	岡 本 典 久
川崎医療福祉大学医療福祉学科 教授	進 藤 貴 子

## 岡山県教育委員会委員（令和4年3月31日現在）

職 名	氏 名
教育長	鍵 本 芳 明
教育長職務代理者	上 地 玲 子
教育長職務代理者	服 部 俊 也
委員	松 田 欣 也
委員	梶 谷 俊 介
委員	田 野 美 佐

### （参考資料1）地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。